

2017年度

学校関係者評価委員会第2回議事録

日時：2017年11月8日（火）18時30分～19時30分

場所：東京YMCA医療福祉専門学校15教室

出席者：山野 晴雄氏 吉野 たけし氏 小泉 昌広氏
欠席者：永井 純氏
列席者：八尾 勝 林 恵子 村上 剛 倉持 有希子 中浦 俊一郎

I. 聖書日課 詩編 1篇6節

Tokyo YMCA Daily Message の本日の聖句とその解説を村上副校長が朗読した。

II. 議事 議長：吉野委員

1. 前回「記録」の確認とまとめ

八尾校長より、前回の記録の確認と、まとめがなされた。

2. 今後のアクションプランについて

校長より広報について、両学科長より各学科での取り組みについて説明がなされた。

(1) 広報活動について

・奨学金について

来年度から介護福祉科は、多摩地区の学生を対象に新たな奨学金制度を実施し、学生への経済的支援策を厚くする。

・入学者へのアンケート調査について

前回の会議で提案を受けた件は、来年度以降に反映をしたいと考えている。

・入学試験について

来年度から「作文」を行わない方向にする。

・外国人の受け入れについて

私費で留学して来る学生や本校の学習に適性が高いと思われる留学生に対しての奨学金制度を準備し、サポートする。来年は、数名の留学生が入学する見込みがある。

(2) 介護福祉科の活動について

- ・教育課程編成委員会でも指摘があったが、YMCAの独自性のひとつは「ボランティア精神」。このことをもっと強調して行く。入学後早期にスタートし、活動への参加頻度も多くなるよう設計する。

- ・ 国立市地域の社会評議員をしている本校教員の地域とのつながりをきっかけに、少しずつ、地域でのボランティア活動に学生が参加するようになっていく。次年度はこれを毎月のように実施し、地域に根を張った活動に育ててゆく。
- ・ 国家試験に向けて、それぞれの学生に合わせて丁寧な指導をしてゆく。今年度はあと2か月に迫り、学生は緊張している。来年度は、今年度の結果を踏まえ、改めて計画を立てる。

(3) 作業療法学科の活動について

- ・ 国家試験の受験のサポートを強化する。今まで以上に具体的な達成目標の設定、早い段階からの学生への意識づけを行う（既卒生も含めて）。
- ・ 現場イメージをできるだけ持てるように工夫する（当事者の方々に来校して頂いての授業など）。
- ・ ボランティア活動への積極的な参加を図る（学生が多様な方々と接する機会を増やし、直接的な地域貢献および学生のコミュニケーション力のアップを図る）。
- ・ 介護福祉科との合同勉強会を行う（生活を援助するという面においては両学科は近い専門分野である）。
- ・ 先日、地域の大きな祭りである「国立まつり」に、作業療法を多くの人々にアピールするためのブースを展開した。来場した人々の興味関心を引いたと感じた。「作業療法の認知と明るいイメージ・楽しいイメージ」を外部に表出させることは、高校生のアピールにもつながるのではないかと考えている。今後もいろいろな形で地域の人々に「作業療法」をアピールできるように考えてゆく。

3. 質疑応答・ディスカッション

以下のような質疑応答があり、感想・意見・提案などが述べられた。

(1) 山野委員

- ・ 高校は生徒よりも先生の方が大学進学志向になっている介護福祉分野は不人気である。大学の中には介護福祉科を閉鎖する大学もある。ベテランの高校の先生はYMCA医療福祉専門学校を良いと知っているが、中堅以降の若い高校の先生はどんな専門学校があるのか知らないかもしれない。中堅の高校の先生にYMCAを知ってもらうことをしないとイケないのではないか。できるだけ、先生たちの目に触れる活動をした方がよい。
- ・ 自分の地元での経験の話であるが、高齢者の脳トレーニング麻雀という活動があり、多くの方々に参加している良い活動である。その活動を地域にある大学の学生がサポート役で来ている。YMCAもそのような形で、地域の活動に貢献できるのではないかと。
- ・ 外国人留学生は、国際交流や異文化理解のよい機会である。このことを忘れないようにし、日本人の学生がいないので、外国人留学生を入学させるという安易な考えというのは、違うと思う。在籍者数の5%ぐらいがよいのではないかと。

(2) 小泉委員

- ・ ボランティアは学生が個人（一人）では行きづらいものである。複数の学生で一緒に行ける環境をつくるのが良いのではないかと。

- ・いろいろな機会、学校・学生が学外の活動に参加することが、もう少し増えると良いと感じている。

(3) 倉持介護福祉科学科長

- ・現在の計画では、学生5名ぐらいが一緒に行くのが良いのではないかと考えている。
- ・最近、実習に行っても「利用者の方が何を求めているのか？」を感じ取れない、読み取れない学生も多い。そのような経験をもっと積み重ね、揉まれることにより、そのような実力がつくと思われる。

(4) 吉野委員

- ・先日、高齢者の方々を対象に、一緒に楽しむイベントを国立市で行ったらとても良かった。何よりも「楽しさ」が重要だと思う。学生も「楽しさ」がないものには振り向かないのではないか。
- ・学生の指導で、「ボトムアップとトップアップ」を目指すのは大変な作業。しかし、今の学生の状況を考えると、この対応策はどうしても必要であろう。
- ・国立市はオリンピック・パラリンピックに向けて動いている。スポーツ文化財団では、車いすバスケットボール、ボッチャ、キンボールなど障害者と健常者が一緒に取り組み楽しもうというイベントを開催している。多くの参加者があるが、スタッフの方が不足している状況。そのようなイベントでも、ぜひ、YMCAの学生のパワーを活かして欲しい。

(5) 倉持介護福祉科学科長

- ・「家庭での介護を楽にする方法講座」などを実施できる教員がいるので、地域の方々に向けて有益な活動を展開できるのではないかと考えている。

(6) 八尾校長

- ・留学生の受け入れは、千差万別の対応が必要と考えている。丁寧に対応してゆきたい。とくに、一年生の前期がとても大切。クラス担任や教科の教員、その他関係者一同がこぞって留学生に関われる体制にしたいと考えている。
- ・留学生が少なければ、日本人学生のクラスに混ざって受け入れ、非常に多くなるようであれば、留学生のみで独立したクラスをつくるなどの方策を検討中である。
- ・今は、厳しい状況が続くが、教職員一同で協力し、一人でも良い学生が入学・卒業して、社会に貢献できるように努めたい。
- ・委員の皆様から頂いたご意見を十分に踏まえたうえで、学校改善に結びつくような学校運営ができるように努めます。

4. 校長より閉会の挨拶

本日の委員会をもって今年度の学校関係者評価委員会は終了する。来年も学校のサポーターとして引き続き関わっていただきたいとの旨の話があり、委員の皆さまへの感謝を伝え閉会となった。

記録：村上剛